

ひょうご経済・雇用活性化プラン推進会議 [第1回]

議事要旨

- I 日 時：平成 29 年 7 月 31 日（月）13：00～14：50
- II 場 所：兵庫県公館第 1 会議室
- III 出席者
構成員：15 名（別紙 1 のとおり）、オブザーバー：兵庫労働局長
県：知事、副知事、産業労働部長 他
- IV 次第
 - 1 座長選出
 - 2 議 事：経済・雇用施策の充実に向けた課題検討
- V 主な内容
 - 1 開会
 - 2 井戸知事あいさつ
 - 3 座長選出
全会一致で兵庫県立大学 加藤恵正教授 に決定
座長の指名により座長代理に関西学院大学 佐竹隆幸教授 を選出
 - 4 会議の取り扱い
会議は公開とする
 - 5 議事
 - (1) 当局資料説明
当局から議事に関する資料を説明
 - (2) 意見交換
別紙 2 のとおり
 - 6 井戸知事あいさつ

出席者(構成員) (15名)

大浦由紀 株式会社セラピット代表取締役
岡本剛二 KOJI OKAMOTO DESIGN OFFICE 代表
加藤恵正 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
北野美英 日本イーライリリー株式会社コーポレート・アフェアーズ本部長
坂本賢志 株式会社アシックス スポーツ工学研究所 IoT担当マネージャー
佐竹隆幸 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
田淵真也 農事組合法人丹波たぶち農場理事
本丸勝也 兵庫ベンダ工業株式会社取締役
牧村 実 公益財団法人新産業創造研究機構理事長
三津千久磨 ミツ精機株式会社代表取締役社長
三渡圭介 兵庫県商工会連合会理事
安原宏樹 魚の棚東商店街振興組合理事長
湯川カナ 一般社団法人リベルタ学舎代表理事
横山由紀子 兵庫県立大学経営学部教授
吉田達樹 兵庫県経営者協会副会長

議事要旨（意見交換）

○座長

世界の情勢は目まぐるしく変わっていて、それに連動して兵庫県の経済も変わっていることを考えると、ここで皆様とともに兵庫県経済の地盤固めについて御議論させていただくことは、大変重要ではないかと思えます。どうぞ、忌憚のない御意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、早速、議事に入ります。

第1回目の会議ですので、議論の素材となる資料について、まず事務局から御説明いただきます。よろしくお願いいたします。

資料説明

○座長

それでは、委員の皆様から、自由に御意見をいただきたいと思えます。第1回目ですので、お気づきの点、お感じになっている点、あるいは事務局から説明いただいた資料についてのコメントをいただければと思えます。

○A委員

私からは二点あります。

一点目は、参考資料1の21ページ、指標のところ、待機児童が増えているというか1,500人いるということです。現在、平成24年の調査では兵庫県の育児中の女性の就業率が全国ワースト2位となっています。そうした状況を改めるにも、待機児童がいてはまずいのですが、保育園だけでそれを対応するのは非常に難しいと思えますので、思い切った工夫が必要かと思えます。

例えば、1歳児保育を重点的に拡充することで育児休暇を取る方向に推進すればどうかと思えます。現在、1歳児保育からだ保育園に入れなくて、0歳児の時から預けて、育休を取らない方も多くいらっしゃいます。ですので、待機児童対策プラス1歳児を拡充し、2歳児以降は子ども園に移行する流れをつくるなどして、保育所以外での保育の流れ、受け皿をつくることが必要かと思えます。

もう一点は、就業支援のあり方です。再就職支援やUJIターンの支援をされていますが、何となく待ちの姿勢という印象を受けます。もし必要になればサポートしますという姿勢に見られます。再就職に関しても、お母さん方が再就職を意識するまで待つのではなく、出産前後から意識できる仕組みづくりが必要です。UJIターンに関しても、大卒者の3割が辞めることが問題視されがちですが、視点を変え、卒業する学生たちに「3年後の転職を意識して頑張ってきて下さい。その時にはぜひ兵庫県に」と、兵庫県への転職を意識してもらうようなメッセージを伝えながら送り出すということも一つの手ではないかと思えます。その時には、「このホームページに来たら情報がある」ということを、卒業する時点で示しておくことも必要かと思えます。

○座長

後段の方は、いわゆる第二新卒と関わっていると思います。大卒者の3割が辞めて、また労働市場に戻ってきますが、転職はうまくいっていますか。

○A委員

少なくとも今までは転職は良くないと捉えられがちでしたが、産業構造が大きく変わっていく中、むしろ方向転換ができる社会をつくる方が良いのではないかと思います。辞める理由として、トップは休日や人間関係、仕事が合わなかったというのも約2割ですので、移動しやすい社会への方向づけが必要だと思います。

○座長

労働市場が非常に流動的でミスマッチもなく、そういう変化に柔軟に対応できれば、学生たちにもっともメリットがあると思いますが、どこかまだ制度・仕組みがぎくしゃくしていて、結果的に辞めることで不利になるとまずいという気がします。

○B委員

第二新卒について、ちょうど県が37大学と連携協定を結んで、新卒はもちろん第二新卒も含めた制度を整えられる土壌ができたと思います。しかし、これは大学側が反省すべきことで、学生が卒業すると、大学あるいはゼミの先生に連絡をしてきません。大学卒の場合、ゼミの先生が窓口になるのか大学が窓口になるのか、そういう整備を大学側でまずやらないと、情報の集約ができないので、県としての施策のやりようがないです。

県で奨学金支援制度を創設いただいたので、UJIターンを含めて県に第二新卒者を戻す一つの制度整備はしていただいています。とにかく第二新卒については、まず大学を窓口にせざるを得ないので、各大学においてデータのリスト化をいち早くすることが急務だと思います。

○座長

これは大変重要な問題で、供給サイドは様々な面で頑張っていると思いますが、企業も含めた需要サイドや社会制度として、転職することが不利にならない仕組みを兵庫県でつくっていただければと思います。

○C委員

西播磨並びに但馬、丹波の中山間地における過疎はひどい状況にあります。根本的には、産業がありません。過疎というのは入ってくるお金よりも出ていくお金が多いと言われていています。収支バランスが完全な赤字となりますが、その過疎の中山間地にたくさんある森林という資源を有効に活かし切れてないことが、大きな問題であると思います。かつて林業は基幹産業の一部でしたが、完全に衰退してしまいました。私は、ロジスティックス（流通）に問題があると思います。

ドイツ、アメリカでは、山から製材、そして工務店に至るまで一貫したシステムの中で林業がなされています。日本の場合には、山主、製材、問屋、小売屋、工務店など細かく分業されています。これを民間で一貫してやろうと思っ

でも、既成概念や慣習があって難しいので、その仕組みを変えていかざるを得ない気がします。一次産業の六次化が叫ばれる中、林業が最も遅れていると思います。この六次化について、山から町に直接、流通を持っていくことによって、林業の活性化と過疎対策につながるのではないかという気がします。仕組みづくりと支援が必要になると考えます。

そして、商店街の疲弊も過疎地においては甚だしく、かつて栄えていた林業など地場産業を活性化することによって、商店街も活性化すると考えます。近隣の観光地から観光客を商店街に引っ張ってくることで、シャッターが開き始めたり、開業した事例もあります。商店街の活性化イコール過疎対策としての中山間地における林業の活性化ということについて、兵庫県内で仕組みを変えることによって、両者がうまくいくのではないかと思います。

○D委員

外資系の視点から申しますと、2～3年前の会社の移転時に、会社が成長するに当たって千人規模の場所がないということで、大阪や東京も検討いたしました。現在は神戸に入っていますが、不動産を探す中で話を伺っても、他の会社も東京からこちらへの移転を検討する際に、千人規模のところがないのが問題だと指摘されていました。空いている部屋はたくさんあるようですが、まとまった千人規模のものが必要であると思います。

次に、会社として中途採用することが多いのですが、こちらにUターンで帰ってくる際、仕事をしている配偶者が、入れる会社がないということでなかなか神戸に来ていただけないという問題が発生しています。我々としても、そういう意味で様々な企業が集まってくる兵庫県であれば良いと思っております。そのために、企業誘致を積極的に進めていただければと思います。

また、第二新卒にもつながる話ですが、ワーク・ライフ・バランスが取りやすい街というところに、神戸の魅力はあると思います。ワーク・ライフ・バランスが取りやすい環境が兵庫県にあるというイメージづくりを徹底することによって、無理に東京で頑張らなくても、魅力的な会社が集まっている兵庫県で働こうというようなメッセージづくりができればと思います。

○E委員

私たちは、主婦の雇用創出に取り組んでいます。特に、育休中の方が、社会に戻るためのキャリアアップを3年間ほどしています。働きたいけど働けないと思っている主婦たち、また、もう辞めたいと言っている第二新卒予備軍の子たちからも、直接、話を伺っています。

やはりワーク・ライフ・バランスで暮らしの質が、神戸は圧倒的に高いです。転勤でいらっしゃった奥様たちも、もうここにいたいと言います。神戸で地元に残っていたいという学生たちも、ここから離れたくない、神戸の暮らしが好きだと言います。また、親の介護が必要になるので遠くに出られないという子が近年、とても増えています。

それだけ働きたいのになぜ働けないのか。具体的に聞いてみると、生活にあまり困っていない分、働きがい求めているがそのような仕事に就けない。ま

た、子供を預けて働くことができないのが理由です。そこで、私自身がずっと起業してきたので、そのアントレプレナーシップ（起業家精神）を教えてください。ただし、子育てしながらの主婦の起業は大変なので、チーム制のシェアワークによるプロジェクトをしています。二人分の仕事を必ず三人でシェアするようにし、お子さんに熱が出た時や介護が必要な時にもフォローし合える体制をつくっています。

学生とやっているのは、働きがいがある仕事をつくるアントレプレナーシップの教育及び働き続けられる環境づくりです。三宮に拠点をつくっており、豊の広場にして、赤ちゃんを連れて来ておむつをかえたりしながら働ける、テレワークができる場所も整備しています。関わっている企業にとっては、イントレプレナーシップ（企業内での起業）に近くなりますが、外のステークホルダーと一緒にプロジェクトを立てていけないかと話をしています。企業は、硬直した組織では難しくなるような、変化の早い状況に対応した商品やサービスが生み出せ、かつ未来のステークホルダーとの関係づくりができます。

兵庫県に行けば幸せな働き方ができる、そういう取組をやっているところが数多くあるという形を実現すれば、外からも「就職したい。人間らしい暮らしがしたい。そうだ兵庫へ行こう。」と思ってもらえるのではないかと思います。そういう面としての取組の発信を続けていきたいと思います。地域の核となるのは企業で、私たちはサポーターとして良い人材を送り続ける、真つ当な事業を行う企業が発展し、さらに地域で雇用をつくることを応援するのが仕事だと思っています。草の根情報までたくさん持っていますので、連携できれば良いと思います。

○座長

そういうチームが企業とコミットしながら、だから企業に就職するというよりは、そのチームとして新しいものを、様々な情報を提供されている訳ですか。

○E委員

主婦の場合は、企業のCSV（CSRよりも本来の事業と融和的な企業の社会活動）のようなプロジェクトを立ち上げることが多く、学生はそれに関わることで、一、二年生のうちから県内にどういう企業があってどういう働き方だということを実感し、就職活動の際に選択肢に入れていただくという、そのような取組を広げていければと思っています。

○F委員

経済と雇用の話ですので、二つの視点があり、この両輪がうまく回らないといけないと思います。一つは、パイをどう分けるか。これは一か所に集まることではいけないので、ワークシェアリングが必要です。

一方、パイがなくなってしまうことがあります。今、企業が戦っているのは、実は兵庫県のライバル企業ではなく、インドネシアや台湾、タイなどの新興国です。そこでは、今や自動車の部品でも何でも、誰もがつかれるコモディティになってしまっています。そこはコスト競争の世界です。そういう土俵には上らないところを狙っていかないと、雇用のパイがなくなってしまう。そ

ういう意味で、①航空機・航空エンジン②水素のような次世代の環境エネルギー③健康・医療④ロボット、A I、I o Tの四つの分野が大切です。

航空機では、L C Cという小さな飛行機が飛び回っています。これは、20年間で3万機の需要があります。その額は20年間で約500兆円。1年間で25兆円です。日本の生産額は現在、2兆円くらいです。自動車に比べれば小さいですが、参入できれば自動車よりも果実は大きいです。航空機を丸ごとつくれば良いという話もありますが、MR Jのような小さなものは別として、150人乗り以上となると、世界では2社しか成り立ちません。

その中で、例えば、川崎重工はボーイング787の胴体を丸ごとつくっていますし、三菱重工は主翼をつくっています。これは、ボーイング社ではできません。そういう点で、日本はスーパーT i e r 1（一次下請）というところがあり、T i e r 2、3、4という重層構造ですが、T i e r 1がスーパーT i e r 1、T i e r 2がスーパーT i e r 2を目指す。そこで、新たな提案をして主導権を握り、日本の先ほどの2兆円のパイを広げます。

航空機産業は大企業が牽引しますが、中堅・中小企業の裾野を広げることが必要です。その際、参入するための認証が非常に難しいため、そこへのサポートが必要です。また、工業技術センターに非破壊検査トレーニングセンターを設置いただきます。こういう施策を積極的に出していただくと、人が集まってきます。もともと兵庫県には航空関連企業がたくさんあります。そういう意味で、産官学が同じ方向を向けば、兵庫県が大きな拠点になり得ると考えます。

水素も同じです。水素の用途には、発電と車があります。水素発電の最大の課題は、大量かつ低コストでできなかったことです。その際に、オーストラリアの未利用資源から水素をつくって液化して運ぶというプロジェクトが進みました。オーストラリアからの補助金も確定しましたので、2020年に向けて動き出しています。

車については、燃料電池車がありますが、E V車とはすみ分けできると思います。燃料電池車の方が圧倒的なパワーがあり、乗る楽しさがあります。バスなど様々な形での使い方もあると思います。E V車は電池がどんどん減っていくので、近郊を回る程度です。水素についても、兵庫・神戸に関連企業がたくさんあります。資料2の8ページにあるように、今後の計画も示されていますので、ぜひ継続的な施策をお願いできればと思います。

○G委員

製造業で中小企業を経営しています。「産業力」では、航空など成長産業分野になかなか展開できません。「人材力」では、業種として人気がなく、人材確保に困っています。「国際力」では、設備投資に億単位がかかるため、簡単に海外には出て行けないという点で苦しんでいます。その中で中小企業としてどう生きていくか、我々はまず大きく二つ目指しています。

一つが、I o T、A I分野です。中小企業、製造業としても、例えば、生産コストをどう下げていくか。ここにはI o T、それから設備保全という部分、機械が壊れると大きな損害をもたらしますので、そこにどういう技術を使って

いくか。それから、失敗をどう減らしていくかというところで、AIもIoTも活用しています。

兵庫県内で同じように中小がIoTにどんどん取り組んでいる事例がなかなかありませんので、どこでIoT、AIを知るのかと問い合わせがよく来ます。県内よりも、どうしても東京や大阪、その中で同業者だけでなく異業種と積極的に交わって情報収集をしています。我々だけではなかなか展開しづらいですので、そういった知識を取り込めるような場所を兵庫県につくっていただければと思います。

もう一つは、事業承継です。特に事業譲渡です。例えば、中小企業として設備や土地等を買うには、非常に大きなお金がかかります。ただ、後継者がいない企業は、特に2012年以降あふれてきています。その中で、まず、その後継者のいない企業の方々と話をします。それから、例えば公庫系金融機関と相談し、事業を買い取るということを今、進めようとしています。買い手には投資額を抑えることができるメリットがあり、売り手には雇用をそのまま継続できるメリットがあります。また、同業・異業種のシナジー効果も魅力的かもしれません。

買収監査（デューデリジェンス）など、様々な専門家のアドバイスを受けたりマッチングしてくれるような場を、これから兵庫県内にぽつぽつと開いていただけると、若い社員を送り込んでいくことも可能だと思っています。

OH委員

商店街で若手を中心に活動していますが、商店街の活性化をするために大きな問題は、長老さんが長い間いらっしゃったりして、若手が戻って来づらいことです。イベントをやりたくても、なかなか長老さんのオーケーが出ません。それだったらもう大学へ行ったし、都会に仕事を見つけようと、両親も「帰ってきてもしんどいよ」という循環になってしまっているのではないかと。

しかし、体力があるうちに若手が商店街の執行部に入り、そこで自分たちのやりたいこと、お祭りや地域のイベントをする状況をつくらないと、街はおもしろくならないですし、街の個性を発信できません。

例えば、100年先どうなっているかということは、最も不安だと思っています。誰もそれに対して話したがない。どうなっているか分からないからということもありますが、逆にはっきり言った方が良いのではないかと思います。このままだと日本全国が過疎化する。だからこそ、急激な変化が起きていくのであれば、体力のあるうちに早く対応することが必要だと思っています。

AIで多くの担い手がカバーできますが、雇用できないということも生まれますし、多くの待機児童を受け入れる皿をつくれれば、子供たちが減れば皿が余ってきます。どういうベクトルに行くのかを、戦略として大きな柱をつくっていかないといけないと思います。

このような中、今の若者は消費マインドが非常に低いです。子供たちが小さな頃から地元で仕事をしたいという気持ちや、お金が入ったらこういうことができるという可能性をもっと教育するべきかと思っています。何かよく分からない

まま大学へ行き、就職し、おもしろくなかったら辞めるという感覚で社会に出てしまっている感じがします。

最後に、兵庫県は、大阪や東京に比べて五国と言われて広いですから、五国の個性をもっと際立たせ、合衆国のように、他の地域ができないような尖らせ方ができると思います。地域の特性を活かしたまちづくりや地域づくりができれば、もっと楽しい未来が待っていると思います。

○ I 委員

旅行者、インバウンド、若者を取り込むには、兵庫県では際立ったオリジナリティのフックがないのではないかと感じています。その解決手段として、スポーツをフックにすればどうかと感じています。宇宙やロボット、障害者、高齢者が働きやすい環境ということに関しても、兵庫県の特色を活かし切れていないことが課題です。この解決手段としても、スポーツを起点として展開することが一つの手段として考えられます。

兵庫県は、マラソンやトレイルランニングが盛んなランニング王国と言われています。例えば、街から少し電車に乗れば、近代登山の発祥地である六甲山があり、そこではトレイルランニング大会がかなりされています。県内で例えばIoT/ICT技術を駆使したランニングコースを5~6か所づくり、そういった取組をSNSで発信し、そこが健康増進の場となることで、生活習慣病予備軍である働き盛りの戦線離脱を避けることや、インバウンドの呼び込みもできると思います。

ただ、離散的に5~6か所つくってもインパクトは小さいので、兵庫県という地理を活かした手段もあるかと思っています。御嶽山で展開されているような高地トレーニングエリアを兵庫県につくるのはどうでしょうか。実は、氷ノ山と御嶽山で標高は200メートルほどしか変わりません。ですので、山側（日本海側）でそういうエリアがつくれますし、冬季スポーツのトレーニング場にす等も考えられます。一方で海側（日本海側）は、防災公園と総合運動公園等を連携させ、国立スポーツ科学センター（JISS）の関西版みたいなものをつくり上げ、アスリートに来ていただき、計測産業みたいなことができると思いますし、兵庫県の大学でバイオメカニクスやバイオエンジニアリングを学んだ人たちがそこに就職するという形で若者を留めることもできると思います。また、各種競技が離散的に実施されている兵庫県の国体予選やインターハイ予選を全部そこで行うことが、観光客を呼び込む一つの手段になると思います。

次に、宇宙産業について、「宇宙から見たら日本の首都は兵庫県だ」ということを伺ったことがあります。兵庫には標準子午線があり、西区に航空衛星センターがあり、宇宙産業関連の会社もあります。宇宙産業は、ロケットの材料・エンジンだけでなく、いわゆるGPSに似た衛星活用、測位産業に繋がる企業が沢山あり、測位産業を展開できる土壌が兵庫県には既にあります。

最後に、ロボット産業では、ロボット義足を販売されている会社と連携し、義足と靴のマッチングを良くすることで、義足の方の活動量を上げようという取組を進めています。こうした方たちも今後は労働力となるのではないかと

うことで、障がい者の方へもスポーツを起点に様々な活動向上の取組ができると感じています

○J委員

少子化の中で求人倍率が高くなっていますが、学生たちは、漠然としたイメージの中で、何でもありそうな大都会にしがみついて、安定的な企業を求めているような気がしています。これは、不安な思いで就活をする中、デジタル社会で活字情報が多すぎて、結局何をどう信用していいのかわからない。そういう中で、親の言いなりになっているのが事実ではないかと思えます。もしそうだとすると、東京にこだわらなくても地元企業でこんなに働きやすい、あるいは働く目的意識に合う職場があるということ、彼らの感性に訴えて注意を引くことが大事であると思えます。

一方、受け手側の中小企業では、例えば、県で始めた奨学金システムについて、甘やかしていると主張される経営者も少なからずいらっしゃいます。働き方改革についても云々と、あまり理解していらっしゃらないです。こうであれば、今どきの若者にそっぽを向かれてしまうと思えます。1980年以降生まれのミレニウム世代では、会社の発展よりも働く環境や個人の成長に非常に関心が高いです。したがって、彼らとのギャップを埋めていかないと、若手人材の確保は非常に難しいと思えます。

そこで、提案としては、就労環境条件の改善努力や社会貢献をアピールできる中小企業向けの認定システムが、県主導でつくり込めないかということです。くるみんマークやなでしこ銘柄、ベストプラクティス企業等がありますが、これは全国版です。レベルが高く、大手以外では難しい部分もあるので、チャレンジしやすく、努力過程も評価されるような認定システムができないかと思えます。兵庫県には、ひょうご仕事と生活の調和推進企業というシステムが既にあります。これは非常に良いことだと思いますが、もう少し細分化すると同時に、健康やCSRなど広い分野も対象にすれば、中小企業はそこをターゲットにするのではないかと思えます。子育て支援、介護支援、多様な働き方は当然のこと、それ以外にも、CO2フリーや産廃フリー、ヘルスチェックサポートや運動促進、地域の子供とのスポーツ交流、もっと簡単なところではクリーンアップ作戦でも結構です。様々な評価システムをつくれれば、それに組みやすくなるでしょうし、学生サイドもそれがアピールされていれば、接点を持つきっかけになると思えます。

○K委員

高齢化が急速に進展する中、介護・医療に関しては、団塊世代の方が今から10年で75歳、そこから95歳前後で皆さんが亡くなるというその間を、兵庫県としてどう支えるか。

そう考えると、採用や雇用とゆっくり考えている状況ではありません。人材不足に関して、ロボットや外国人という御提案をいただきますが、正直なところ、ロボットでできることではなく、最終的にはやはり人が人を支える、コミュニケーションの部分でとにかく人手が必要です。そこで考えていることは、

高齢者に介護・医療が必要でない状態でいつまでいてもらえるかという、健康寿命の延伸にどう取り組むかです。

それを考えると、中小企業が健康増進、健康経営にいかに取り組んでいくかです。そして、皆さんがリタイアされたときに健康なまま、お互いに支え合う地域をどうつくっていくか。介護事業者は、要介護になられた方がお客様というよりは、その手前で、私たちのお客様にいかにならないようにいていただくかという、経営自体の考え方を全てシフトしていかなければ生き残れないような状況になってきています。

兵庫県全体で様々な地域がありますので、一概にまとめはできませんが、生まれてからお母さんが働く、そして自分は預けられる。そして学校を卒業したら、普通に親に預けられて働いてきた子供たちは、今度はまた自分も預けながら働く。歳をとってリタイアしたら、当たり前前に地域を支えるボランティアや住民主体のサービスの中で活躍する。このようなライフサイクルのどのステージにおいても、どんな世代もが活躍できるような兵庫県をつくっていくことが求められていると思います。

○L委員

生まれ育った田舎がどんどんさびれていくのが寂しいと思い、独立を機に、東京から新温泉町にUターンし、田舎からデザインの発信に取り組んでいます。但馬は、産業もなければ本当に何もありません。神戸に来ると、信号がたくさんあり、兵庫県は田舎と都会が一つになった県だと実感します。

地元に戻って5年で感じていることは、田舎には本当に何もありませんが、山と海はあります。その大自然は他では絶対真似ができない、素晴らしい魅力があり、春や秋にジョギングやウォーキング、トレイルランニングを海岸線沿いですると、とても気持ち良くて夕日が綺麗です。夏には、マリンスポーツがあります。但馬の海の魅力をもっともっと発信したくて、カヌーガイドの資格を取り、洞窟などを案内して魅力を皆さんにお伝えするなどしています。あとは山です。たくさん雪が降るので、スキーやスノーボードを楽しむ大自然のテーマパークで、USJにもディズニーランドにも負けないくらいの迫力の雄大な大自然があるので、そこを活かした新しい産業、ビジネスができないかと感じています。

○M委員

農業について、農地を65町くらい扱っていますが、始めた頃から2倍以上になっています。辞める方も多く、他の産業と同じく人手不足が問題です。農業の場合は、農業高校や農業大学校があるにも関わらず、そこから農業に入るという仕組みが十分できていないようで、農協や農業機械メーカーに行くラインはありますが、そういったところがもったいないと思います。

ITの活用については、GPSを使って田んぼを鋤く際に、一回通ったところをディスプレイ上に色塗りするようなものを、兵庫県と県内の中小企業が一緒に開発されたいです。こういったところは進んできていますが、IT人材が不足している印象です。

これからは、用水路や農道、ため池といった農業インフラが、40～50年前に整備されたものばかりですので、一気に壊れてきているという状態です。それをどうしていくかが地域の問題ですが、若手はほとんど外に出て仕事をしており、あまり熱心な話になりません。タイミングにもよりますが、IT、IoTが使いやすい、お年寄りでも使いやすいような農業インフラに変えていく良いチャンスだと思います。ですので、京阪神の農業技術を持った方々が、田舎でインフラ整備に活躍していただけるような仕組みづくりが必要かと思います。

○N委員

航空産業非破壊検査トレーニングセンターについて、航空部品メーカーや航空産業への参入を目指す会社、肝心の重工メーカーから見ても、業界内の話ではありますが、注目度が非常に大きいです。ただ、期待度については、クエスチョンの部分があり、それだけまだよく分かってない、どういうストーリーなのかが分からないところがあるので、シナリオをそろそろ出してPRしていく時期かと感じています。

こういった戦略的な施策の際には、今回は工業技術センターがその受け皿と伺っていますが、施設整備やトレーニングだけではなく、ぜひ受入機関には少し余力を持っていただいて、利用者が駆け込みやすい施策とも合わせて実施いただければ非常に助かると思っています。

○B委員

C委員がおっしゃった林業については、オーストリアのギュッシングに里山資本主義の事例があります。いわゆるバイオマスクラスターとって世界の研究拠点ですので、県で一度調べていただければと思います。

E委員がおっしゃったCSVです。従業員と企業とお客様と地域がいわゆる価値統合づくりをしていくというベースが社員満足度の向上であるという、それを何か活用できればと思いました。

J委員がおっしゃった企業の信用力創造をシステムとして、残念ながら、ひょうご経営革新賞とひょうご優良経営賞が廃止になってしまいましたので、兵庫の認定制度を創設していただければと思います。

最後に、高度技術産業は非常に重要ですが、C委員がおっしゃったように、地場産業を見せて売る場所をつくるのが重要です。神戸市は神戸アパレルということでアパレルと洋菓子と真珠と日本酒とケミカルシューズを一体に見せて売れる場をつくらうとしています。例えば、全国的には、伊勢のおかげ横丁が商業クラスターですし、出雲のご縁横丁も成功していると思います。それこそ豊岡の鞆、西脇の播州織、姫路の皮革、これらを一体的に見せる場、売れる場みたいな商業クラスターがつくれたらと思います。

最後の最後、H委員の商店街の問題について、若い方がこれから何十年と商店街で食っていけることが一つの活気となって成功しているところは、全国的には若干なりともありますので、何かそれでケースができればと思います。

○座長

皆様、ありがとうございました。